



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会

発行人：高良 政勝

編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 26 年 1 月 20 日発行 第 27 号



安謝小学校全校児童制作の「対馬丸」垂れ幕／幅 6.5m

平和学習を通して学んだことを、村馬丸記念館

から広く発信するする場「平和のひろば」。

子どもたちから平和の心を伝えます。



平和学習成果展

私たちの 平和学習

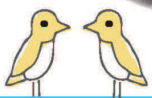


那覇市立天妃小学校5年生

那覇市立天妃小学校5年生

沖縄市立島袋小学校5・6年生

那覇市立安謝小学校全校児童



- ◆場 所：村馬丸記念館 1階 平和の約束ひろば・企画展示室
- ◆期 間：第1期 2013年 11月29日～12月20日
第2期 2014年 1月25日～ 3月予定 / 展示がえあり
(来館前にお問い合わせ下さい ☎098-941-3515)



平和学習推進連携事業が、

着実に実を結び始めました。

平成二四年度に作成した、『対馬丸記念館ワークブック』を活用した、平和学習推進連携事業が始まりました。事前学習や館内見学の必携アイテムとして、子どもたちが対馬丸事件や疎開生活の概要、沖繩戦についての基礎知識を習得するのに役立っています。

表紙写真で紹介した那覇市立安謝小学校は六年生が徒歩で見学に訪れた後、六月一六日の校内平和集会で対馬丸の平和劇を演じ、その際の背景絵として対馬丸疎開乗船者一六六一名の人型を貼付けた対馬丸の垂れ幕を全児童で作成しました。

沖繩市立島袋小学校は館内見学をした上級生が、対馬丸事件について下級生用に分かりやすく伝えるために紙芝居や壁新聞を作成し語り伝えるなど、各学校では対馬丸記念館で学んだことを様々な方法で伝える取り組みが行われています。



証言映像を聞きながらワークブックをチェックする



ワークブック利用による新たな館内見学スタイルで、子ども達の見学行動にも変化が表れはじめた



下級生に自作の紙芝居で対馬丸事件を伝える

昨年、那覇市立安謝小学校で、対馬丸を通した平和教育に取り組んだ同校六年生から感想文が届きましたのでご紹介します。

対馬丸

六年 辺土名 夏鈴

私達六年生は、平和学習で安謝小学校から対馬丸記念館まで対馬丸でそかいした子供達のように歩いて行きました。私達は水などを持っていったけれど、そのときの子供達は水もあり飲みなかつたり、私達よりももっとたくさんのきよりを歩いていたと思うしとても大変だったと思います。でもそかいのためにたくさん歩いてすごしたいと思いました。

対馬丸記念館に着いて私達はまずビデオを見ました。対馬丸で子供をそかいさせたお母さんの話で、そかいさせた子供達は一人も帰ってこなくて今でも海に眠っているという話でした。その後クラスごとに資料を見て対馬丸はどこに沈んだのか、亡くなった人や助かった人はどれ

くらいいるか、しずんだ後はどうしていたのか、などたくさんことがわかりました。資料や話でびっくりしたことは、対馬丸がしずんだことは秘密で言っではいけないということ。最初は自分の子供の亡くなった原因も知ることができなかつたし、生き残った人も話すことが出来なかつたと言っていたことです。それを聞いて、亡くなった人の家族も生き残った人も両方大変でつらかつたと思いました。

この後、私達は学校の平和集会对馬丸の劇をやりました。対馬丸記念館で学んだこと、わかつたことを生かして対馬丸に乗っていた人々の気持ちを想像したりしながら演技をしました。また、戦争で、対馬丸で亡くなった人々に向けての歌を歌いました。

こうした平和学習を通して悲しい戦争を起こさないように未来に伝えて行くことも大切だと思いました。そして戦争のもとになるけんかなども少しでも減らしていくのも大切だと私は思いました。

平和学習を通して学んだこと

六年 金城 有沙

私は、戦争について正直あまり、わかりませんでした。けれど、対馬丸記念館に行つて、見学したり、実際に、亡くなった人の絵（編集部注：表紙掲載の対馬丸の絵にある人型）を描いて、こんなにたくさんの方が亡くなつたと思うと、とても悲しい気持ちになりました。改めて、自分のこの命を大切にしようと思えました。

平和集会での群読の中に「大好きだった沖繩の景色、大人になつてもあつたはずと見えていたかつた。」という言葉があります。その言葉から、毎日毎日、平和に生きていけて、景色もずっと見ていられる事が、どんなに幸せかがわかりました。

戦争で亡くなつた人は、もっともつと生きてかつたけど、できなかつた。だから、私は、戦争で亡くなつた人の分まで、命を大切に生きていきたいです。

平和教育担当教員研修会実施

〈那覇市教育委員会〉

那覇市教育委員会との共催で、平和教育担当教員研修会が対馬丸記念館で実施されました。プログラムの作成などを当館で担当し、生存者で語り部の平良啓子さんや県平和祈念財団の平田守さんに講師を務めていただき、講演後、館内見学や周辺にある慰霊碑等を巡り、実り多い研修会となりました。



第3種郵便物認可



対馬丸記念館の展示について解説する高良政勝さん(左)17日、那覇市若狭

市教委と対馬丸記念会

平和学習どう進める

教員対象に初の研修会

那覇市教育委員会は、対馬丸記念会と共催で、市内小中学校の平和教育担当者を対象に7日、対馬丸記念館で研修会を開いた。初めて市内全小中学校54校を対象に開催した。対馬丸遭難事件の体験者や意見交換会を通して、平和学習への見識を深めた。参加した教員からは「前から聞いてほしかった。ずっと続けてほしい」などと評価する声が上がった。

市内全小中参加 課題も浮き彫り

対馬丸事件の講話では、経験者をつとめた。当時小学4年生だった平良さんは、疎開のため対馬丸に乗船した。沈没時は大波の中、油にまみれ必死にいかだにしがみつき、6日間漂流した体験を語った。



平良啓子さん

元小学校教師だった平良さんは、教科書問題もあるが、子どもたちに正しい平和教育をしてほしいと訴えている。戦争をさせないよう、体当たりをしても止められないこと、今は組合も弱くなっている。今は組合も弱くなっている。今は組合も弱くなっている。

だが、平和のためには教員が教育の自身を整理し、洗脳されないような教育をしてほしい」と訴えた。

城北小の徳元鈴華教諭(28)は「生きるのに必死だったことが伝わった。今の私たちでは同じこと

が、平和のためには教員が教育の自身を整理し、洗脳されないような教育をしてほしい」と訴えた。

「とてもいい取り組みだった。平和教育の講師が見つからないなど、教師も困っていることが多く。今回の研修会を子どもたちに還元したい」と語った。

平和教育担当の教員は毎年交代する学校も多く、参加した教員からは「研修の時期を5月にしてほしい」との要望も多かった。ほかに平和教育のヒトオが古い「戦争に対する恐怖心から、授業に参加しない子どももいる」

「平和教育への取り組みが弱まっている。学校長や市教委にリーダーシップを取ってほしい」「学校現場は多忙で、平和をじっくり考える時間がない。うわべだけの学習になっている」などの課題を指摘する声も上がった。

研修会に参加した市内小中学校の平和教育担当教員ら。想を述べ、「今はまだ体験者の話が聞けるが、今後はどうなるのだろうか」と不安を口にした。館内視察では対馬丸記念館の高良政勝理事長が展示室の遺影について、犠牲者総数に比べ5分の

1と少ないことなどを解説した。高良さんは「もう現職の先生に戦争経験者はいない。現場の先生方には平和への思いを強く意識してほしい」と強調した。

県平和祈念財団の平田守さんは「沖繩戦の特徴と教訓」と題して講話した。沖繩戦を①日本国内の地上戦だった②国土防衛・国民保護の戦いではなかった③戦場への民間人動員④沖繩戦の犠牲者は兵士より民間人が多

く、参加した教員からは「研修の時期を5月にしてほしい」との要望も多かった。ほかに平和教育のヒトオが古い「戦争に対する恐怖心から、授業に参加しない子どももいる」

特別展の展示計画から見えてきた新たな視点

学芸員 慶田盛さつき

対馬丸犠牲者の慰霊碑「小桜の塔」建立に大きく尽力した縁の深い愛知県、同県にある「戦争と平和の資料館 ピースあいち」で今年六月、企画展「対馬丸沈没展」が開催され、関連イベントとして生存者上原清氏による講演会を実施した。これをきっかけに、両館の所蔵する資料を相互貸し借りし交流展を行うこととなった。

当館では、ピースあいちより「戦争と動物たち」のパネル及び関連実物資料を借用し、太平洋末期の戦時下の動物たちに焦点をあて、戦争と動物たちとの関わりや犠牲になった動物たちの実相について展示。戦争によって、人間と同じく動物たちも様々なかたちで尊い命を失ったことを知り、改めて戦争の悲惨さと命と平和の尊さを考える機会とした。

今回の企画展を行うにあたり、沖縄の動物園について調べていくと、「中城動物園」が出てきた。実は、私自身今回の調査で初めて知る歴史だった。沖縄の誇る世界文化遺産の一つ中城城跡、そこにかつて動物園があったとのことである。当時の子供世代の方へ話

を聞くと確かに「動物たちはい」と話すが、動物園に関するまとまった記録等資料がほとんどない。そこで、当時の新聞記事を手掛かりに関連情報を集め、少しずつ動物園の様子が浮かび上がってきた。戦後のことであ

たが、関連展示として盛り込むこととなった。

沖縄にキリンやライオンなど動物園でおなじみの動物たちがやって来たのは、一九五六（昭和三一）年のこと

で、戦後沖縄で初めての公園・中城公園内に遊園地と共につくられた。当時の記事には、キリン

をはじめライオンやヒョウ、クマ、シカ、ホロホロ鳥など十七種の動物御一行が船で那覇港へ着いたこと（一九五六年五月）や、子供の日に三万人の人出で大賑わいとなったこと（一九五六年五月）などあり、目の前で見られる動物たちが大きな話題になっ



ていたことが分かる。また、自然を利用した独特の地形や気候から「将来日本動物園全体の繁殖地に」（一九五六年五月）という上野動物園園長の話もでたようである。動物園には、年々ゾウやラクダ、サル、ペンギン、フラミンゴなども仲間に加わっていき、遊園地と相まって子どもから大人まで大人気となった。マイカーを

持つ県民が少なく、観光バスやタクシーなどでこぞつて訪れる、沖縄で唯一の行楽地となっ

ていた。しかし、その後施設の充実が進まず、七〇年代初期には動物たちもいなくなつていったようである。さらに、当時の新聞記事を見ると、本物の動物たちに沸く県民の明るい話題の一方で、軍事施設の建設や戦後復興に伴う建設ラッシュと共に消えていく子供たちのあそび場の必要性や、多発

する子供の交通事故を伝える記事、兵士による暴力事件、交通事故等が混在することに気づく。戦後十数年を経て、県民の生活に少しずつ余裕が出はじめ、家族や仲間たちと観光へ出かけ休日を楽しむことができる時代に、中城公園の動物たちが人々へ与えた幸福感や明るい未来への期待は大きかったのではと感じる。それは、東山動物園のゾウ列車が子供たちに夢と希望を与えたことと同じである。

馬魂碑があったことなど知らなかった」という声も多く聞かれた。実際、「戦争と動物」をテーマとした展示会は、これまで県内であまり見られなかったもので、新鮮な視点での展示会となった。地元マスコミにも多く取り上げられ、県民へ展示内容を広めるきっかけとなった。

また今回、沖縄にある動物関連の慰霊碑・馬魂碑（糸満市真壁）と鳩魂碑（糸満市米須）について掘り起し調査を行うことができた。

展示会感想には、「戦争で人間だけでなく動物も同じように苦しみを味わったんだなと思った」（十二才）や、「戦争の話は聞いているが、動物たちが巻き込まれた実相についてこれまで知る機会がなかったよかったです」、「中城城跡の動物園や

また今回、沖縄にある動物関連の慰霊碑・馬魂碑（糸満市真壁）と鳩魂碑（糸満市米須）について掘り起し調査を行うことができた。

はと鳩
○：戦争に巻き込まれた動物たちについて考える特別展「戦争と動物たち」が、那覇市若狭の対馬丸記念館で開かれている。9月10日まで。

○：1956年に中城公園内の動物園にキリンやライオンがやって来たことをパネルで紹介。沖縄戦で犠牲になったウマやハトを祭る糸満市の慰霊碑についても展示している。

○：同館学芸員の慶田盛さつきの「人間だけでなく、動物たちも戦争に巻き込まれていったことを学んでほしい」と話した。同館は、中城公園内の動物園について伝える資料の提供も呼び掛けている。



8
22

平成25年度 対馬丸慰霊祭

対馬丸 市民の友

2013年(平成25年)10月

8/22 平和継承を誓う ～対馬丸慰霊祭～

8月22日(木)、若狭の「小桜の塔」で、69年前のこの日、多くの子どもたちを乗せ、米軍の潜水艦の攻撃を受けて沈没した学童疎開船「対馬丸」の犠牲者を悼む慰霊祭が行われました。生存者や遺族、関係者ら約350人が参列して亡くなった方々のご冥福を祈りました。

慰霊祭では、犠牲者が当時在籍していた小学校の児童でつくる「つしま丸児童合唱団」が、「明日という日」など3曲を合唱したほか、参列者全員で戦没者へ哀悼の意を込め、1分間の黙とうを捧げました。最後に、平和への思いを託したオオゴマダラが披露されました。



那覇市「広報 市民の友」10月号



対馬丸沈没犠牲者の冥福を祈る参列者ら。22日、那覇市若狭の小桜の塔

対馬丸慰霊祭

350人 犠牲者冥福祈る

児童ら合唱、劇を披露

大勢の学童を乗せた疎開船対馬丸が米潜水艦の攻撃で沈没して69年を迎えた22日、那覇市若狭の小桜の塔で慰霊祭(対馬丸記念会主催)が開かれた。生存者や遺族、関係者ら約350人が参加、亡くなった人々の冥福を祈った。犠牲者らが当時在籍していた小学校の児童でつくる「つしま丸児童合唱団」が合唱を披露した。

「対馬丸」冥福祈る

沈没69年 那覇で慰霊祭

学童疎開船「対馬丸」が米潜水艦に撃沈されてから69年がたった22日、那覇市若狭の小桜の塔で慰霊祭が開かれた。少なくとも1482人が犠牲となった対馬丸事件、参列した生存者や遺族ら約350人は、犠牲者の冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。



対馬丸の犠牲者オオゴマダラを放つ児童合唱団の子どもたち。那覇市若狭、小桜の塔

沖縄タイムス 平成25年8月23日

館を中心に平和の発信に努めたい」とあいさつした。慰霊祭終了後、事件を題材にした劇「語り継ぐ対馬丸の詩」も披露された。歌と踊りにせりふを挟み、事件の悲惨さを表現した。出演した小椋高校3年の宇座徳人君は「これからも平和の気持ちを沖縄に残せるよう頑張りたい」と話した。

琉球新報 平成25年8月23日

1フィート運動の会→対馬丸記念会 平和理念継ぐ 財産寄贈



対馬丸記念会の高良政勝理事長(左から3人目)に寄付金を贈る1フィート運動の会の福地晴弘元代表(同4人目)と同会理事ら。24日、那覇市の対馬丸記念館

3月に解散した沖繩戦記録フィルム1フィート運動の会(清算人・福地晴弘同会元代表)は24日、対馬丸記念館で、同館を運営する対馬丸記念会に、清算残余財産約46万円を贈った。福地元代表は「対馬丸の悲劇は沖繩戦の中で最も悲しい惨劇。1フィート運動の会

は解散するが、沖繩戦が忘れられないよう伝え続けてほしい」と目録を手渡した。同記念会の高良政勝理事長は「寄付金はフィルム外から収集するために県内外からいただいた浄財。1フィートの平和の理念を引き継いで活動を続けていきたい」と感謝。寄付金は記念館の運営費に充てる。

沖縄タイムス 平成25年7月25日

季節風

○…第21回対馬丸記念会特別展那覇秀作展(主催・同会)が25日、那覇市若狭の対馬丸記念館で始まった。1月19日まで。
○…第61回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール(主催・沖縄タイムス社)で最優秀賞、優秀賞を受賞した同市内の小・中学生の図画、書道、作文339点を展示している=写真。



○…同館の慶田盛さつき学芸員は「子どもたちがそれぞれの視点で描いた作品がそろっている」と来場を呼び掛けた。入場無料。問い合わせは同館、電話098(941)3515。

沖縄タイムス 平成25年12月26日

来館・視察

□ 6月3日
遺族でハワイ在住の瀬長ツル子
(旧姓国吉) さん来館

□ 6月23日
岸田文雄外務大臣 小桜の塔参
拜

□ 7月19日
日下正周 内閣府政策統括官付
参事来館

□ 7月30日
原典久 内閣府調査官 同沖繩
振興局特定事業担当参事官室崎
山英輔主査付来館

トピックス

□ 6月1日
平成25年度 つしま丸児童合唱
団 結団式

□ 6月26日

平成二十五年第一回理事会・
評議員会、開催

□ 6月23日

なほ群星の会主催による「平和
の詩朗読会」(正面広場)



□ 8月7日

平成25年度 那覇市教育委員会
主催 市内小中学校平和教育担当
教員研修会(一階企画展示室)

□ 8月10日~9月10日
第20回特別展「戦争と動物たち」
ぎせいになった動物たちと、生き
のびた動物たちの物語」



□ 8月18日

慰霊祭を
迎えるにあたり、
なほ群星の会
と上山中剣道
部が合同で小
桜の塔及び周
辺を清掃しま
した。



□ 8月22日

平成25年度「対
馬丸慰霊祭」
今年も遺族・
関係者並びに
来賓多数をお
迎えして慰霊
祭が厳かに執



り行われ、参列者三百余名が心を
一つにして平和の祈りを捧げまし
た。

式典にあたり、つしま丸児童合
唱団による、歌碑に刻まれた「対
馬丸」の歌が、小桜の塔一帯に清
らかに響き渡りました。

□ 9月14日

第23回ちやーがんじゅう講座「響
け平和の肝心 あふれる歌声、ひ
ろがる笑顔」



平成21年か
ら歌声で当館
を支援する、
クリスタル
コール合唱団
と栄光メイツ
少年少女合唱
団が今年も歌
声を響かせ、
つしま丸児童
合唱団も栄光メイツ少年少女合唱
団と共に演じました。

ご寄贈・ご寄附

□ 4月5日

開館時に展示協力をしていただ
いた、小学校教諭の宮城淳様より
「沖繩・学校平和劇脚本集」の寄
贈を受けました。

□ 5月10日

遺族の玉橋房子様より、学童疎開
時に使用した木製のトランクの寄
贈を受けました。

□ 7月24日

NPO法人沖繩戦記録フィルム
1フイート運動の会様から、同会
解散による清算残余財産を頂戴い
たしました。



□ 9月9日

高良レコード店様から「バスガ
イドが歌う沖繩のうた」の売上金
を頂戴いたしました。



香典返し

□ 4月22日

生存者で語り部の糸数裕子様よ
り、ご主人糸数昌恒様の香典返し
を頂戴いたしました。

□ 11月30日

遺族で生存者だった、故高良千
代様のご主人高良英三さんの香典
返しを、ご子息の高良英一様から
頂戴いたしました。



故人となられました方々のご冥
福をお祈りいたします。

□ 3月29日~12月16日

平良啓子、糸数裕子、金丸和之、
がじゃんびら会、山口幸子、嘉陽
宗健、大森節子、銘苅健、仲村芳信、
屋比久嘉光、呉屋淑子、社会福祉
法人イエス団、嘉数昇明、新里
敏子、本村弘、さきやま歯科、砂
川みさ子、たから歯科、高良政勝、
渡口眞常、外間邦子、慰霊祭ご香
料、伊藤わらび、當間元信、高良
レコード店、仲田行克、ちやーが
んじゅう講座会場、翁長和子、長
谷川千代子、玉城博江、中津川市
立阿木高等学校、高良英一、神田
栄三、幸地秀子様 以上の方々か
らご寄付を頂戴いたしました。
心よりお礼申し上げます。

子ども達一人ひとりが平和の願いを込めて描きました！

